

# 埼玉県衛生研究所報

ANNUAL REPORT  
OF  
SAITAMA INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

No. 20

1986

埼玉県衛生研究所

第 20 号 昭和 61 年

## ま え が き

埼玉県衛生研究所昭和61年度の所報がまとまりました。

所報は、研究所の公衆衛生、特に疫学に関連する情報、生活環境に関連する情報の蓄積されたもの、また新しく産み出された情報を社会に還元する意味を持っています。

これは主として埼玉県内の事象についてのものですが、単に此の地域のみに還元するものではなく、日本、あるいは世界に向かって開かれていることを意味し、研究所として社会に対する義務でもあります。

また一方では、当研究所の未来に向かって踏み締めた足跡であり、日々の努力と研鑽の表現されたものです。それは試験研究に携わっている個人の人格の一端を表現したものでもあります。業績の動機となったアイデア、結論に至る苦しみを通じた成果ですからFIRST AUTHORが評価されるのはいうまでもありません。

このように所報は、研究所を評価する上で最も重要な資料の一つです。また同じように個人が評価される大切な作品でもあります。

従って、論文は実験なり、調査する時と同じように注意深く、時間をかけて検討する努力が必要であり、また単に作品の良し悪しだけの評価でないことも当然です。

試験にしても、研究にしても、これと思われる力の入った業績は、分野によって異なると思われるが、公衆衛生の分野では10年単位の時間を必要としよう。

このようなことから、今年度発表の業績は、研究所にとっても、個人にとっても夫々の歴史の一断面であって、来年、再来年と業績の積み重ねが必要となることはいうまでもないことです。

毎年自分の存在を噛み締めるためにも、1年に1遍は出来る限り世に送り出せるよう努力したいものです。

昭和 61 年 12 月

埼玉県衛生研究所

所 長 方波見 重兵衛

# 目 次

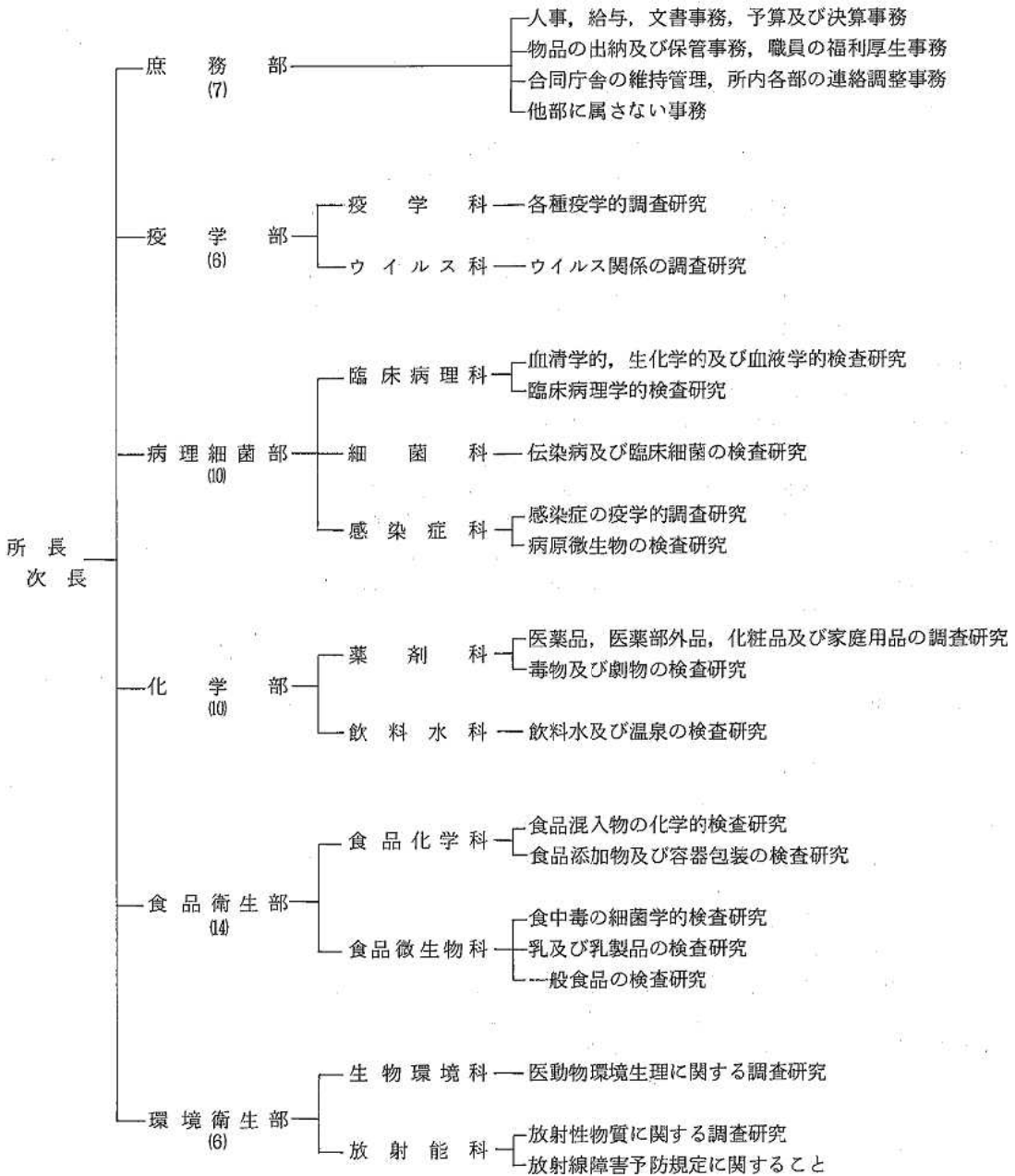
1. 浴 革 .....	1
2. 組織及び事務分掌 .....	2
3. 職 員 .....	3
(1) 職員の配置状況 .....	3
(2) 職員名簿 .....	4
4. 業務報告 .....	6
(1) 疫学部 .....	6
(2) 病理細菌部 .....	9
(3) 化学部 .....	13
(4) 食品衛生部 .....	14
(5) 環境衛生部 .....	18
5. 研修業務 .....	20
(1) 保健所等職員の技術研修実施状況 .....	20
(2) 所内職員の研修実施状況 .....	21
6. 論 文 .....	22
昭和59年度におけるインフルエンザの流行調査 .....	22
サルモネラ感染症対策に関する調査研究 第3報 .....	30
埼玉県における梅毒の血清学的考察 2,STS陽性例における <i>Treponema Pallidum</i> 抗体について .....	38
集団検診における尿糖検査とヘモグロビン A <sub>1c</sub> 測定結果の検討 .....	43
水道原水及び浄水中におけるCNPとX-52の実態調査(昭和59年及び60年) .....	47
水道原水及び浄水中の界面活性剤の調査(昭和60年度) .....	53
蛍光検出器を用いた高速液体クロマトグラフィーによる食肉中のオキソリニン酸及びナリジクス酸の定量 .....	58
水からの病原細菌の定性的検出法に関する研究 - 塩化第二鉄による沈澱法の改良について - .....	62
7. ノ ー ト .....	66
Coxsackie A21 (CA21) ウイルスの流行 .....	66
埼玉県におけるヒト及び環境由来サルモネラの血清型と薬剤耐性(1985年) .....	69
海外旅行者下痢症における毒素原性大腸菌の検出状況(1983~1985年) .....	74
埼玉県民の血液中重金属含有量について .....	78
高速液体クロマトグラフィーによるアフラトキシンの定量法 .....	84
ECD-GC及びGC-MSによるヒスタミンの分析 .....	88
埼玉県における食中毒発生状況について(昭和41年~60年) .....	90
そう菜類(半製品)の細菌汚染実態調査 .....	97
食品におけるエルシニアの分布状況調査 - 鶏肉について - .....	99
埼玉県内の某学校給食センターにより発生したカンピロバクターによる食中毒事例 .....	102
浦和市郊外(見沼田圃)における水田皮膚炎の調査成績 .....	111
全ベータおよび空間線量率計算ならびにその結果のデータベース化用プログラムについて .....	114
8. 資 料 .....	123
日本脳炎感染源調査(1981~1985年度) .....	123
両神村におけるB型肝炎追跡調査(昭和57年度) .....	124
両神村におけるB型肝炎追跡調査(昭和58年度) .....	129
両神村におけるB型肝炎追跡調査(昭和59年度) .....	133
埼玉県の腸管系病原菌検出状況(1985年) .....	137
海外旅行者の腸管系病原菌検索(1985年) .....	139
感染症情報管理事業に伴うレンサ球菌検査状況 第7報(昭和60年度) .....	145
埼玉県内の水道の水質(昭和60年度) .....	147

母乳中の有機塩素系農薬およびPCB等の継続調査（昭和60年度）	148
麻痺性貝毒及び下痢性貝毒の検査結果について（昭和56年～60年）	150
注射剤の発熱性物質試験結果について（1977～1986年）	152
水田皮膚炎について	154
埼玉県におけるクモ刺咬症の1例について（1985年）	155
9. 紹介	156
都市化地域における河川及び農業用排水路の汚染についての衛生学的総合調査	156
1980～1985年における無菌性髄膜炎のウイルス検出状況	156
学童集団および成人女子層の風疹HI抗体保有状況の推移（1981～1985年）	156
埼玉県の妊婦におけるトキソプラズマ抗体について	157
集団検診における尿糖とHbA <sub>1c</sub> 測定結果の検討	157
つつが虫病の発生について（第2報）	157
海外旅行者下痢症の最近5年間の動向（1980～1984年）	157
一小児科医院受診者におけるHBV保有状況	158
埼玉県におけるヒト由来サルモネラの血清型と薬剤耐性の推移（1980～1984年）	158
埼玉県の腸管系伝染病菌検出状況とバラチフスB菌の取り扱いについて	158
小児細菌性下痢症の原因菌について	159
下水処理場生下水における伝染病菌サーベランス	159
3-Benzyladenine C(8)置換体におけるプロトン化の位置, Cu <sup>2+</sup> イオンの配置及びメチル化について	159
ボウイのメタノール抽出物中の変異原性物質	159
ピリジン・ピラゾロン試薬を用いる水中の残留塩素の測定法	160
水道原水中の界面活性剤の調査	160
高速液体クロマトグラフィーによる鶏肉中のモネンシンの定量	160
食品等におけるエルシニアの分布状況調査	160
園児および小学校児童におけるぎょう虫陽性率の推移について	161
クロゴキブリ成虫の捕獲器（餌トラップ）へのかかり方	161
マーキング法によるゴキブリの移動と生息数の推定 第4報	161
埼玉県における放射能調査（昭和59年度）	162
10. 所内セミナー実施状況	163
11. 著者名索引	164
12. 投稿規程	166

# 1 沿革

年 月 日	概 要	備 考
昭和22年11月4日	衛生部の設置と同時に、警察部所管として明治30年に発足した細菌検査所を衛生部の所管とした。	
昭和25年10月	大宮市浅間町に食品衛生試験所を新設し、食品、環境、衛生獣医などに関する試験検査業務を開始した。	
昭和28年2月15日	大宮市吉敷町1丁目に庁舎を新築し、細菌検査所と食品衛生試験所の業務を合併して、埼玉県衛生研究所として試験・検査・研究業務を行うことになった。 衛生研究所には、庶務課、病理細菌部（3科編成）、化学部（2科編成）、衛生獣医部（2科編成）及び生活科学部（2科編成）を設置した。	庁舎所在地 大宮市吉敷町1丁目124番地
昭和28年12月11日	開所式を行った。	
昭和32年12月5日	放射能研究室を新築増設した。	
昭和37年9月12日	ウイルス研究室を新築増設した。	
昭和40年5月1日	病理細菌部に3科、化学部に3科、疫学部2科及び環境衛生部に3科を設置し、1課4部（11科）制とした。	
昭和43年11月1日	公害研究部（2科）を設置し、1課5部（13課）制とした。	
昭和44年5月1日	庶務課を庶務部と改正し、6部（13科）制とした。	
昭和45年10月1日	公害センター設置により公害研究部を廃止し、5部（11科）制とした。	
昭和47年4月1日	浦和市上大久保に新庁舎を新築した。	庁舎所在地 浦和市上大久保639番地1
昭和47年5月16日	大宮庁舎から移転し、業務を開始した。	
昭和47年5月26日	開所式を行った。	
昭和48年7月1日	食品衛生部（2科）を設置し、化学部を2科とし、6部（12科）制とした。	
昭和49年5月29日	衛生研究所敷地内に動物舎を新築した。	
昭和50年5月1日	組織改正に伴い、従来の科名を県民になじみやすいように科名変更を行った。	
昭和52年4月1日	環境衛生部に廃棄物科を設置し、6部（13科）制とした。	
昭和54年3月8日	検査棟（放射能研究室）を新築増設した。	
昭和57年4月1日	組織改正により、環境衛生部衛生工学科、廃棄物科を公害センターに移管し、6部（11科）制とした。	
昭和60年4月1日	組織改正により、感染症科を疫学部から病理細菌部へ、ウイルス科を病理細菌部から疫学部へ移管した。	

## 2 組織及び事務分掌



### 3 職員

(1) 職員の配置状況

(昭和61年4月1日現在)

職 別		事務吏員				技 術 吏 員						その他の吏員				合 計				
		部 長	主 任	主 事	計	所 長	次 長	部 長	科 長	主任 研究 員	主 任	技 師	計	主 任 (技)	主 任 (技能)	技 師	技 師 (技能)	計	科 別	部 別
所 長						1						1								1
次 長							1					1								1
庶務部	部 長	1			1														1	
	事務吏員		4		4									2				2	6	
疫学部	部 長							1				1							1	
	疫学科									2		2							2	
	ウイルス科								1	1		2		1			1		3	
病理細菌部	部 長							1				1							1	
	臨床病理科								1		2	3							3	
	細菌科								1		2	3		1			1		4	
	感染症科											2	2						2	
化学部	部 長							1				1							1	
	薬剤科								1		2	2	5						5	
	飲料水科								1		3		4						4	
食品衛生部	部 長							1				1							1	
	食品化学科								1		4	1	6		1			1	7	
	食品微生物科								1		3	1	5			1		1	6	
環境衛生部	部 長							1				1							1	
	生物環境科								1		2		3						3	
	放射能科								1		1		2						2	
現在員合計		1	4		5	1	1	5	9	2	20	6	44	2	3		1	6	55	

## (2) 職員名簿

(昭和61年4月1日現在)

部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考
		所 次 長 長 長	方波見 重兵衛 岩 崎 久 夫	所内統括 所長補佐	医師 獣医師
庶務部		部 長 主任(事) 主任(事) 主任(事) 主任(事) 主任(技) 主任(技)	遠 藤 隆 二 近 藤 麻 枝 山 腰 祥 子 関 根 賢 二 大 熊 清 志 松 本 茂 男 和 田 義 信	部内統括, 人事, 財産管理 經理, 物品管理 給与, 研修, 經理 予算, 物品, 庁舎管理 經理, 文書, 福利厚生 庁用車運転管理 庁舎管理, 動物飼育管理	
疫学部	部 長		吉 岡 勝 平	部内統括	
	疫学科	主任研究員 主任研究員	唐 戸 哲 哉 中 村 雅 隆	疫学的調査研究 環境汚染の生物学的調査研究	医師
	ウイルス科	科 長 主任(技) 主任(技能)	村 尾 美代子 戸 谷 和 男 酒 井 正 子	科内統括, ウイルス学的検査研究 ウイルス学的検査研究 試験検査補助	薬剤師 薬剤師
病理細菌部		部 長	奥 山 雄 介	部内統括, 細菌学的検査 血清学的調査研究	獣医師
	臨床病理科	科 長	早 野 厚 子	科内統括, 生化学的検査, 血清学的検査研究	薬剤師
		主任(技) 主任(技)	河 橋 幸 恵 松 岡 正 正	生化学的検査, 血清学的検査研究 生化学的検査, 血清学的検査研究	薬剤師 衛生検査技師
	細菌科	科 長 主任(技) 主任(技) 主任(技能)	大 関 瑤 子 首 藤 栄 治 山 口 正 則 島 田 サ ト	科内統括, 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 試験検査補助	獣医師 獣医師
感染症科	技 師 技 師	大 島 まり子 砂 押 克 彦	細菌学的, 血清学的調査研究 細菌学的, 血清学的調査研究	臨床検査技師 臨床検査技師	
化学部		部 長	森 本 功	部内統括, 医薬品等検査研究 水質検査研究	
	薬剤科	科 長 主任(技) 主任(技) 技 師 技 師	石 野 正 藏 野 坂 富 雄 渡 辺 富 雄 只 木 晋 一 高 橋 邦 彦	科内統括, 医薬品等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師 薬剤師 薬剤師 薬剤師 薬剤師
		飲料水科	科 長 主任(技) 主任(技) 主任(技)	鈴 木 敏 正 広 瀬 義 文 鈴 木 章 竹 澤 富 士 雄	科内統括, 水質検査研究 水質検査研究 水質検査研究 水質検査研究



部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考
食品衛生部		部 長	能 勢 憲 英	部内統括, 食品等化学的調査研究	薬剤師
	食品化学科	科 長	星 野 庸 二	科内統括, 食品化学検査研究	薬剤師 薬剤師
		主 任(技)	田 中 章 男	食品化学検査研究	
		主 任(技)	菊 池 好 則	食品化学検査研究	
		主 任(技)	堀 江 正 一	食品化学検査研究	
		主 任(技)	飯 島 正 雄	食品化学検査研究	
		技 師	齊 藤 貢 一	食品化学検査研究	
		主任(技能)	土 屋 みつ子	試験検査補助	
	食 品 微 生 物 科	科 長	徳 丸 雅 一	科内統括, 食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任(技)	砂 川 誠	食品汚染細菌検査研究	獣医師
主 任(技)		正 木 宏 幸	食品汚染細菌検査研究	獣医師	
主 任(技)		板 屋 民 子	食品汚染細菌検査研究	獣医師	
技 師		青 木 敦 子	食品汚染細菌検査研究	獣医師	
技師(技能)		川 口 千鶴子	試験検査補助		
環境衛生部		部 長	宮 沢 正 治	部内統括	臨床検査技師
	生物環境科	科 長	高 岡 正 敏	科内統括, 寄生虫原虫等検査研究	獣医師
		主 任(技)	武 井 伸 一	寄生虫原虫等検査研究	
		主 任(技)	浦 辺 研 一	衛生害虫等検査研究	
放射能科	科 長	中 沢 清 明	科内統括, 放射能測定, 分析調査研究		
	主 任(技)	川 名 孝 雄	放射能測定, 分析調査研究		

埼玉県衛生研究所報 (第20号) 正誤表

頁	行	誤	正
10	表2, 下から12行と13行の間	横 線	横線削除
38	左側, 上から6行	増加側向	増加傾向
44	左側, 上から13行	全H <sub>b</sub>	全Hb
66	右側, 上から17行	disease, 56	disease, Actd Path Microbiol. Scand., 56
119	行番号2200	BR=ROU2	BR2=ROU2
119	行番号2220	XX=(SD2+BR)	XX=(SD2+BR2)
121	行番号3300	LRINT	LPRINT
121	行番号3320	#, ### ##月	#, ### ##月
121	行番号3320	"##, #	" ##, #
121	行番号3390	"Vs ml"	"Vs ml"
122	行番号3610	OR (BR)	OR (BR2)
122	行番号3630	SOR (BR)	SOR (BR2)

# 11 著者名索引

太字は筆頭者，\*は当  
所職員以外の者である。

A		M	
会田 忠次郎*	154 161	正木 宏幸	90 97 99 102 <b>150 152</b> 160
青木 敦子	90 97 <b>99</b> 102 <b>160</b>	牧野 サチ子*	66
新井 康俊*	124 129	松岡 正	74 137 139 157 158 158 <b>159</b> 159
浅見 洋子*	157		
F		松永 泰子*	66
藤原 二郎*	102	松下 寛*	124 129 133
H		百瀬 隆人*	66
萩原 勝吉*	102	森本 功	78 159 159 <b>163</b>
原口 悟志*	102	轟 厚司*	102
服部 昭二	111 114 154 155 161 161 161 162	村尾 美代子	<b>22 66</b> 123 <b>156</b> 156
早川 勝吉*	78 148	N	
早野 厚子	<b>43</b> 78 133 157 <b>157</b> 157 158	中田 時夫*	30
広瀬 義文	47 53 147 160 160	中村 雅隆	<b>156</b>
堀江 正一	<b>58</b> 84 88 148 160	中沢 清明	<b>114 162 163</b>
星野 庸二	58 <b>84</b> 88 150 <b>160</b>	野本 かほる	43 78 124 129 133 157 157 157 <b>158</b>
I		能勢 憲英	58 84 88 90 97 99 148 150 152 160 <b>163</b>
五十嵐万里子*	157	野坂 富雄	<b>78 159</b>
石野 正蔵	78 <b>159</b> 159	O	
石渡 孝*	157	荻野 淑郎*	30
伊藤 誠一*	102	大島 まり子	145
板屋 民子	<b>62</b> 90 97 99 102 160 <b>163</b>	大関 瑤子	30 69 74 102 <b>137 139</b> 157 158 <b>158</b> 159 159
岩崎 久夫	90 <b>102</b> 148 160 160 <b>163</b>	岡田 正次郎	<b>163</b>
岩崎 篤治*	155	興津 知明	78 156 159 159 160 160 <b>163 163</b>
K		奥山 雄介	<b>30</b> 38 43 69 74 <b>124 129 133</b> 137 139 <b>145</b> 157 157 157 157 158 158 158 159 159 <b>163</b>
梶島 和子*	22 30	S	
笠木 伯男*	102	斉藤 勲*	47 53 160
菅野 三郎*	<b>160</b>	斉藤 貢一	58 <b>88</b>
河橋 幸恵	<b>38</b> 43 78 124 129 133 <b>157</b> 157 157 158	斉藤 茂雄	<b>148</b>
川名 孝雄*	162	笹本 和彦	78 159
小林 茂雄*	156	清水 吉昭*	161
国枝 寛*	<b>157</b>		
近藤 英昭*	159		
京極 和旭*	159		

白石 久明 \* 30  
 塩野 幸子 \* 148  
 首藤 栄治 30 69 74 137 139 157 158 158  
 159 159  
 砂川 誠 90 97 99 102 160  
 鈴木 章 47 53 147 160  
 鈴木 敏正 47 53 102 147 160

U  
 海野 玲子 \* 102  
 浦辺 研一 154 155 156 161 161

W  
 渡辺 富士雄 78

T  
 高橋 邦彦 78 159  
 高岡 正敏 163  
 武井 伸一 111 154 156 161  
 竹内 和幸 \* 78 148  
 竹澤 富士雄 47 53 147 160  
 田中 章男 148  
 手嶋 力男 \* 158 159  
 徳丸 雅一 90 97 99 102 150 152 156 160

Y  
 山口 正則 30 69 74 137 139 157 158 158  
 159 159  
 吉田 謙二 \* 47 53 160  
 吉岡 勝平 47 53 147 163

富田 幸一 \* 157  
 戸谷 和男 22 123 156 156

## 12 埼玉県衛生研究所報投稿規程 (昭和61年 8月改正)

1 所報は、埼玉県衛生研究所で行った試験検査業務、調査研究、資料等を掲載する。投稿は、本所職員に限る。ただし、本所職員以外の共著者がある場合には、その所属を\*印を用いて欄外に入れる。

例 \* 中央保健所

### 2 衛生研究所報の内容

- 1) 沿革
- 2) 組織及び事務分掌
- 3) 職員
- 4) 業務報告
- 5) 総説 各種論文に基づく総説。
- 6) 調査研究 論文、ノート、短報。印刷物として未発表であり、新知見を含むものとする。
- 7) 資料 調査資料、統計。
- 8) 紹介 過去1年間の他誌発表論文及び学会発表の内容紹介。

### 9) 著者名索引

### 10) 投稿規定

### 3 調査研究の形式

形式は、序論(緒言、はじめに)、方法(実験方法、調査方法、材料及び方法)、結果(成績、結果及び考察)、要約(まとめ)、謝辞、文献の順とする。

### 4 紹介の形式

他誌発表のものは次の例による。

#### 例 題 名

#### 氏 名

日本公衛誌(1974): 21(10) 123—129.

#### 要 旨(400字以内)

学会発表(口頭)のものは次の例による。

#### 例 題 名

#### 氏 名

#### 要 旨(400字以内)

日本薬学会第105年会(1984): 金沢

### 5 原稿の書き方

- 1) 原稿は、所定の原稿用紙A4判(20×20字)に横書きで記載する。枚数は原則として、総説40枚、論文30枚、ノート15枚、短報8枚、資料10枚とする。ただし、規定枚数は、表、図及び写真を含む。
- 2) 調査研究及び資料の原稿には表題と著者名をつける。見出しは、原稿の真中に、上下1行をあけて書く。各見出し後の細部の各項目には、次の順序に数字をつける。1, 2, ……; 1), 2) ……; (1), (2) ……。
- 3) 数字はすべてアラビア数字を用い、文章は原則として現代かなづかいで、当用漢字を使用する。用字用語等については、原則として埼玉県発行「文書事

務の手引」による。

4) 文章中の句読点(、。), かっこ( )は1字に数え、—(ハイフオン)は区画の中に明瞭に記入する。

5) イタリック体となる字の下には、———をつける。(例: *E. coli*)

6) 数量の単位は、m, cm, mm,  $\mu$ m, nm, L, ml, kg, g, mg, ng, pgなどを用いる。

7) 表、図の原稿及び写真は、別に、専用原稿用紙、または同型の紙に貼りつけ、本文の後につづり合わせる。表、図及び写真を入れる位置は、本文中の右欄外に矢印(←表1)で指定する。表及び図に関する注釈は、本文中には入れない。

例: 表2 分離菌株の薬剤耐性

(表の上の中央に記載)

図3 果実中の残留農薬

(図の下の中央に記載)

Table及びFig.などの英字を用いる場合は、表及び図全体について英字を用い、英文タイプ、またはレタリングを使用する。

8) 図は、A4判以下の大きさの平滑な白紙または青色グラフ用紙に黒インキで書く。図の印刷は、原則的には著者のものを用いるが、図中の文字につき活字の使用を希望することもできる。また、図のトレースを希望することもできる。図の大きさに希望があるときは、大体の大きさを指定する。

9) 引用文献は、山本<sup>1)</sup>、赤痢菌<sup>2-5)</sup>のごとく1区画を与えて右肩に示し、最後に一括して列記する。

10) 文献の記載は次の例による。

例:

1) 高島 英伍(1981): 畜水産用薬物の現状と問題点, 衛生化学, 27, 127—143.

2) Ames, B. N. (1979): Identifying environmental chemicals causing mutations and cancer, Science, 204, 587—593.

3) 善養寺 浩, 寺山 武(1978): 微生物検査必携 細菌真菌検査 第2版, 264—276, 日本公衆衛生協会(東京)。

11) 脚注は、\*印を用いて欄外に記入する。

### 6 原稿の提出及びその取扱いについて

1) 原稿は、所属部長を経て編集委員に提出する。提出された原稿については、編集委員会で検討を加える。

2) 編集委員会は、所長、次長及び各部から選出された編集委員で構成し、次長を委員長とする。

3) 校正時の原稿の改変は認めない。どうしても必要なものは正誤表による。

4) 初校及び二校は著者、三校（以後）は編集委員が行う。

## 所報編集委員

(アルファベット順)

遠藤 隆 二  
岩崎 久 夫\*  
方波見 重兵衛  
森本 功  
村尾 美代子  
中沢 清 明  
能勢 憲 英  
奥山 雄 介  
(\* 編集委員長)

---

埼玉県衛生研究所報

第 20 号

昭和62年3月印刷

昭和62年3月発行

編集及び発行所 埼玉県衛生研究所

浦和市上大久保東 639-1 〒338

電話 0488-53-6121

印刷所 株式会社 太陽美術

浦和市常盤 1-3-9

電話 0488-24-3261

---